**平成29年度(2017年度)しおあなの森保育園事業報告**

民営化した時に入園してきた0歳児が卒園した年だった。一人ひとり抱えているものは異なり気がかりな子どももいるが、優しくて思いやりがあり、自分を出せる子になって巣立っていった。今年度も、入退園が多数あった。急な家庭の事情で遠くに引っ越すことも多かった。出産やケガに伴う緊急一時保育が複数件あり、保護者には喜ばれた。

**１．保育について**

落ち着いて保育活動に取り組むことが出来た。5歳児は5月の連休明けから、コメ作りに取りくみ、田んぼの土づくり・種もみまき・田植え・水の管理・かかしづくり・稲刈り・稲干し・もみすり、そして精米ののち炊飯器で炊き、おにぎりにして食べた。園では2度目の「バケツ稲」育てであったが、その都度多くの学びがあり、いい経験であった。どの年齢クラスも「明日に期待を持つ保育」を考え、工夫した保育内容に取り組んだ。

12月末から流行りだしたインフルエンザは、A・B型ともに猛威を振るい、保育園始まって以来となる数の子ども・大人が罹患した。手洗い・うがい・予防注射では防ぎきれず、どうしたものかと頭を抱えたが、重症化することもほとんどなく胸をなでおろした。

苦情件数は13件で、保育士の対応が10件、保護者間のトラブルが1件、園の対応が2件ですべて話し合いで解決した。

**2．延長保育の利用について**

年間で延べ544件で昨年度に比べ170件減少した。

**3．一時預かり**

　利用件数は209件で、昨年度に比べ105件増加した。

**4．子育て支援**

園庭開放の参加者は579人で昨年とほぼ変わりがない。保護者同士仲よくなり、12時を過ぎても遊ばせながらおしゃべりしているのは毎年の光景である。育児講座の参加も多く、特におやつの講座のジャガもちピザづくりは大好評で、来年度はさらに回数を増やす。午後からの園庭開放も増えてきた。

**5．交流保育について**

　今年も多くの小学生が休み中や放課後に来園して遊んでくれた(274人)。園の子どもの中には気に入ったお姉ちゃんがいて、来るのを楽しみにしている。言葉の悪さやケガにつながるような行動もあるが、注意すると素直に聞いてくれ、よく遊んでくれる。共愛の子とは菜園活動だけでなく、日常的に交流している。小学校は大仙西・新湊とも交流し、雰囲気の違いなどを感じている。老人福祉センターや愛らいふに行き、日頃笑わない人が笑ってたと喜んで頂いたり、歓迎して頂き子どもたちは大喜びだった。

**6．研修について**

共愛こども園と合同の人権研修は「農野先生」の「子どもたちの権利を護るための保護者理解と支援について」の研修だった。全員で受講する研修は、その後の話し合いにも生きてくるので、増やすことが課題である。園内では障害児保育主担者による3年間の実践報告と講師の助言や乳児・幼児主担者の新保育所保育指針の解説を実施した。保育園に働く人間として人間性を高め、保育の質を向上させるために更なる研さんが必要である。